




研究構想シート	学校名	松江市立義務教育学校玉湯学園
	氏名	小林 裕介
A 研究主題 主体的に学びに向かう子の育成 ～子どもたちのかかわりから授業をつくる～		
B 研究の目的 ①「学び合い」を取り入れた授業を通して、「確かな学力」〔基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と、それらを活用する能力（思考力・判断力・表現力）及び主体的に学習に取り組む態度〕と「人間関係を築く力」を育成する。 ②「学び合い」が活きる授業についての授業構成や指導のあり方、学習課題の設定、意欲を高める諸条件等の研究を通して、教職員の「互いに学び合う同僚性」の向上を図る。		
C 子どもの実態 <ul style="list-style-type: none"> ・ 難しい課題や困難に出会ったときに、くじけたり、体調不良になったりする子がいる。 ・ 粘り強く取り組むことが難しい子が複数いる。 (逃げ出す・投げ出す) ・ 他に頼る子が多い。 (自分の意見がもてない・自信がない) ・ 発言する子が限られている。 ・ 難しい課題に受け身 	E 手立て・内容（研究仮説） 児童・生徒が学びを次に生かす授業について、授業づくりの重点をを効果的に取り入れた授業を実施すれば、主体的に学び合い、実践につなげようとする子が育つであろう。	D めざす子どもの姿 ○自立 夢をもち、自ら判断し、主体的に行動する子 ○共生 未来社会の担い手として、多様な他者と関わり、ともに伸びる子 ○追求 広い視野を持ち、真理を求めて粘り強く学び続ける子  「未来を創造する」 これからの社会をたくましく生き抜く力を身につけた子ども  他者との協働・知識を活用する力・困難に立ち向かい解決に向けてがんばる力を身につけた子ども  学びあう子どもの姿 ・ 課題に対して自分の考えをもっていること。 ・ 自分の考えを伝えていること。 ・ 友だちの考えを自分の考えと比べながら聞いていること。 ・ 自分の考えを振り返っていること。
	F 検証方法 ○年2回の授業アンケート →各学年部、教科部による分析 ○全員参加型の公開授業 →研究協議の中での子どもの学び分析	
	G 研究計画 (1) 研究主題を実現するために、子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を実施していく。 <授業づくりの重点> ①適切なめあての設定・ ②自分で調べたり考えたりする自力解決の場 ③学び合いで考えを深める場 ④めあてに即して一時間をふりかえる場・ ⑤ICTの活用 (2) 9年間を見通した系統的な学習指導 前期ブロック ○学習習慣の定着○具体的な体験や操作活を通して基礎基本の定着を図り思考・判断・表現力の育成○学級担任制を中心とした、きめ細かな指導 中期ブロック ○学習習慣の確立○基礎基本の定着○思考力・判断力・表現力の向上 後期ブロック ○自ら学習に取り組む姿勢の重視○進路選択に向けて○地域の活動への参画・交流	